

公益社団法人全国学習塾協会の元会長、石井正純氏が秋の叙勲に

学習塾・帝塚山泉の会代表で、公益社団法人全国学習塾協会元会長の石井正純氏（84歳）が秋の叙勲に選出された。発令は11月3日付け。元国勢調査員でもあり、国勢調査功労として瑞宝単光章に輝いた。



学習塾業界にも尽力している石井正純氏

石井氏は、1955年に学習塾・帝塚山泉の会を設立し、以後学習塾業界に尽力。関西私塾教育連盟（関私連）の創設に関わるほか、（公社）全国学習塾協会では長年会長を務めた。国立大阪病院小児科院内学級を開設するなど、子どもたちのための活動も精力的に行った。2015年4月5日には、日本民間教育大賞「民間教育最高功労賞」に選ばれ、表彰されている。

第10回 塾女研究会 「講師の魅力の引き出し方」

10月30日（日）、（株）WiShip主催の『塾女研究会』、秋バージョンが開催された。『塾女研究会』は、民間教育業界で働く女性「塾女（じゅくじょ）」のための勉強会。参加する塾女の層は、経営者・会社役員から社員まで、年齢も20～40代までと多岐にわたり、この日も盛會に終わった。

今回の勉強会のメインテーマは『講師の魅力を引き出す塾女力』。塾運営において重要な「講師マネジメント」について考え、学ぶ機会となった。各自の取り組みや悩みを共有することを目的に、いつも以上にワーク・対話形式を盛り込み、アルバイト講師のやりがい・成長を引き出すための考え方や具体的手法を共有した。

毎回サブテーマとして行う『塾女力講義』では、『産休・育休ハウマッチ』と題し、国の制度が紹介された。産休育休取得の前例がない塾で働く塾女たちへ、実例がないことで不安になったり諦めたりするのではなく、自身がパイオニアとなり、上司に提案したり相談する姿勢が大切とエールを送った。次回は、「上司を元気にする塾女力」「生産性向上」をテーマに来年4月23日（日）開催予定。



子どもと一緒に参加するという「塾女研究会」ならではの光景

株式会社ビーシー・イングス（田中学習会） サンライズと資本提携、新社長に川隅学氏、東京学習社の全株式取得

田中学習会を運営する株式会社ビーシー・イングスは、2016年4月21日に香港系のCLSAキャピタルパートナーズが助言を行う、日本企業投資に特化したプライベートエクイティファンドであるサンライズ・キャピタル（以下、「サンライズ」と）の資本提携を実施。また12月1日には新会長・新社長の就任を発表し、翌12月2日には小学校受験を中心とする株式会社東京学習社（本社・広島県）の全株式取得を発表した。



▲会長に就任した田中弘樹氏



▼社長に就任した川隅学氏

サンライズとの資本提携後について、田中弘樹会長は「業績も好調で、16年11月期についても、創業以来連続で続けている増収も、97年以外続けている増益も確実となつていま

す」と語る。新社長には、川隅学氏が就任。田中弘樹前社長は、代表権を有する会長として、引き続き経営をリードする。「意思決定も整備し、私自身は本場にやるべきことに集中できています。東京学習社との資本提携についても、大変スムーズに安心して行うことができました」と田中会長は言う。新社長の川隅学氏は1974年生まれの42歳。入社後は広島県内各教室での講師を経て、現在は呉中央校の教室長を勤める。今後の経営方針について、「さらなる積極的な事業展開を計画しています。例えば、より幼少期からの能力開発やIT化の時代

に必要な不可欠とされるプログラミング教育等、受験対策にとられない新たな分野での教育サービスの提供も検討しています。田中前社長が築かれた事業基盤をさらに発展させ、より多くの子どもたちの成長支援を実現していきます」。

田中会長と川隅社長



NPO法人学習塾全国連合協議会（NPO塾全協） 第42回全国研修大会 開催 「英語教育の課題とその克服」

開会式冒頭、大会委員長の沼田広慶全国会長は喫緊の課題として、「真のグローバル人材の育成」「AI（人工知能）に対応する教育システムの革新」「深刻な子どもたちの貧困問題」の3つを掲げ、「私たち教育人は、

こうした課題に立ち向かっていくべきではないでしょうか」と述べた。

第一部の講師は松平知樹氏（公益財団法人日本英語検定協会 高大接続／カレッジズペシャリストチーム）で、「4技能テストで今